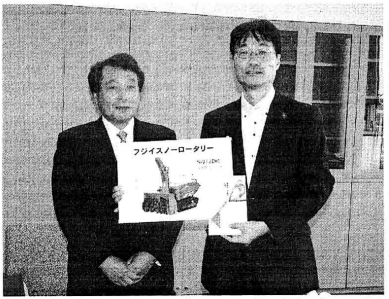
フジイコーポレーション㈱、ジャパン・ツバメコンペ副賞を燕市に

最高賞受賞の新型除雪機1台寄付

燕市小池で、除雪機、草刈り機、高所作業機などの製造を手掛けるフジイコーポレーション㈱(藤井大介社長)は、十一日、燕市に最新型のディーゼルエンジン搭載型小型除雪機「Si912DK」(メーカー希望小売価格百四十三万六千四百円)を一台寄付した。



同製品は、ことし三月に新潟県燕市物産見本市協会、燕商工会議所、日本金属洋食器工業組合、日本金属ハウスウェア工業組合が主催した「ジャパン・ツバメ・インダストリアル・デザインコンクール」で最高賞となる経済産業大臣賞を受賞。副賞として賞金を得て、さらに同じタイミングで燕市役所の新庁舎が開庁したころから、「ぜひ、新庁舎で役立ててほしい」と寄付したもの。コンペの賞金をこうした形で市に還元したのは初めて。

午前十一時、燕市役所を訪れた同社の吉井吉次機械事業長ら三人は鈴木力市長と面会、目録を手渡した。

吉井機械事業長は、同コンテストでの受賞に触れた上で、「ここ数年、自治会への(除雪機購入の)助成金などをつけていただき、さらに商工会議所のメイド・イン・ツバメにも認定いただいた。本当にみなさんに感謝している」とあいさつ。

鈴木市長は、「あくまで審査の結果。ただ豊口先生(審査委員長の豊口協長岡造形大学理事長)は、絶賛されていた。この大きさ、この機能でコストが安い。製造方法、ある意味、技術を評価されたのだろう」とした。また、昨年までは「ジャパン・ツバメカトラリー・ハウスウェア・デザインコンクール」としていたが名称を変更し対象を広げたことに触れ、「インダストリアルに変更されての受賞だった」と振り返り、「新庁舎にはあれだけ広い駐車場があるので、ぜひ、活用したい」と感謝の意。

職員が安全に機械を操作できるよう、降雪シーズンを控えた十一月頃に改めて同社社員が来庁し、操作講習会を開くこととなった。

(細山)